

深圳レポート

2020 年中国の携帯電話産業のマーケティング調査分析

2020 年 4 月に中国の携帯電話の出荷数は初めて昨年を上回る、
5G スマートフォンは業績の成長を牽引する可能性がある

ポイント

- 中国の携帯電話市場は徐々に回復
- 5Gスマートフォンの比率が上昇
- 一部の携帯電話部品のサプライチェーン企業の注文が飽和
- 海外の携帯電話市場の成長は不確実な状態

参照サイトURL:<https://bit.ly/30xCDDn>

中国の携帯電話市場は徐々に回復

「CAICT」が5月12日に発表したレポートによると、2020年4月の国内の携帯電話市場の総出荷量は4172.8万台で、前年比14.2%増加した。2020年1月から4月までの国内の携帯電話市場の総出荷量は9068.1万台となり、累計で20.1%減少した。

2019年5月-2020年4月 中国携帯電話市場の月次出荷台数の統計と成長率

2019-2020年4月中国手机市场出货量当月值统计及增长情况



资料来源：前瞻产业研究院整理

© 前瞻经济学人APP

データソース：前瞻産業研究院

2019年5月-2020年4月 中国携帯電話市場の年間出荷累積台数と成長率

2019-2020年4月中国手机市场出货量累计值统计及增长情况



资料来源：前瞻产业研究院整理

© 前瞻经济学人APP

データソース：前瞻産業研究院

その中で、5Gスマートフォンの出荷台数が4割近くを占めていた。これまで、中国国内携帯電話市場の出荷数量は10ヶ月間連続で前年同期比を減少しており、多くの携帯電話業界の関係者は、国内の携帯電話市場が徐々に回復したと感じている。

5G スマートフォンの比率が上昇

「CAICT」のレポートによると、国内の5Gスマートフォンの出荷比率は、1月の26.3%から4月の39.3%に増加した。

5Gスマートフォンの具体的な出荷状況を見ると、2020年4月中国国内市場の出荷台数は1638.2万台、発売された新機種は22機種、同時期の発売機種数の45.8%を占めた。



※画像はイメージ

2019年7月-2020年4月
中国の5Gスマートフォン出荷量が
同期間の携帯電話総出荷量に占める割合の推移状況



资料来源：前瞻产业研究院整理

@前瞻经济学人APP

データソース：前瞻産業研究院

中国国内の5Gスマートフォンは明確な構造的上昇傾向を示している。第1四半期と第3四半期は、大手携帯電話ブランドの新製品を集中的にリリースする時期となる。3月には、「Huawei」、「HONOR」、「Redmi」、「OPPO」、「vivo」が順次、新製品の発売を進めており、新しい5Gモデルを発売している。これまでの、主流ブランドの5Gスマートフォンと比べ、2,000元（約30,000円）を超える価格帯となってきた。

一部の携帯電話部品の サプライチェーン企業の注文が飽和

中国証券報は、多くの携帯電話業界が、第2四半期から通常の生産が再開し始め、一部の企業では注文が飽和状態になっていると報じている。



※画像はイメージ

「Guanghong Technology」は電子機器製造工場であり、「Huawei」、「vivo」、「xiao mi」が会社の主な取引先である。「Guanghong Technology」の会長秘書である楊栄氏は、中国証券報の記者に対し、次のように述べていた。

「現在、4Gから5Gへの移行段階です。弊社が生産する5Gスマートフォンは20%から25%の間を占めています。また、3月下旬に通常の生産を再開、受注は増加していて生産が拡大し、現在工場はフル稼働状態です。弊社の惠州工場では、従業員数も昨年9月のピーク時だった13,000人から、現在は15,000人を超えています。」



※画像はイメージ

海外の携帯電話市場の成長は不確実な状態

「Wentai Technology」の担当者は、以前、中国証券報に次のように述べていた。

「海外市場の需要はまだ不確実であり、「COVID-19」の影響で消費者は普段より価格に敏感になっている可能性があります。当社がお客様に提供する製品はコストパフォーマンスが高いモデルであるため、製品の競争力が向上し、お客様の注文が減っている状況にはなっていません。インドの工場は作業を再開し、6月には通常に戻ると予想しています。国内市場は徐々に回復し始め、特に5G製品の発売が会社の業績の成長を牽引すると予想しています。」

「COVID-19」の海外での感染拡大について、携帯電話市場の需要に与える影響は無視できない課題である。そのため、感染症の影響を受けて、販売量は短期的に減少するリスクがあると見込んでいる。

ハードなロボの指先に、ソフトなグripper

社名	北京软体机器人科技有限公司		英語名	Soft Robot Technology Co.,LTD	
代表者	高少龍		URL	www.softrobottech.com	
所在地	北京市丰台区富丰路 6 号启城空间 2 层				
売上 (RMB)	-	従業員 (人)	50 以下	創業年	2016/3/16
資本金 (RMB)	718 万元 (約 1 億 1 千万円)				
サービス内容	産業用ロボット向けグリッパーの設計、製造とソリューション提供				



同社はメーカーの生産ラインの全工程の設計、オーダーメイドでのソフトグripperの製造などを提供するハードウェアテクノロジー企業。

様々な形状のアイテム、デリケートなアイテムの選別、運搬、包装に使われる工業ロボットの中で大きなシェアを誇る。現在40種類以上のグripper製品を製造しており、応用分野は電子機器業界、食品(生鮮含)、医薬品、自動車部品、機械加工など多業界をカバーしている。

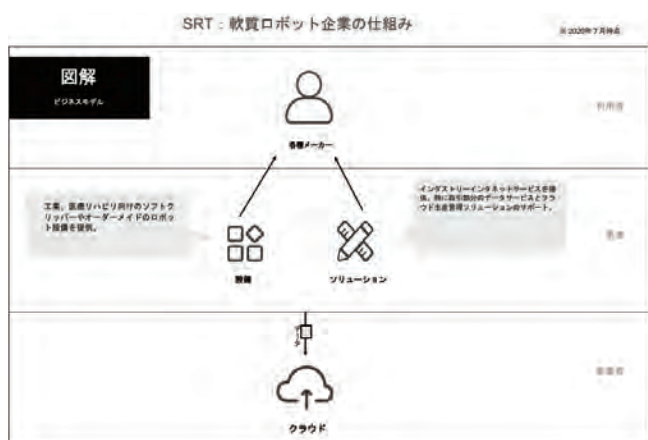
「3+1」のビジネスモデル

3つの柱と1つの新規事業を推進している

1. 製品開発。製品発売から2年で世界中20業界300社以上の企業にサービスを提供。年間の客単価のメインは数百万円～億単位。
2. イノベーション。応用分野を開拓するため、既存の設備や商品を掛け合わせ、イノベーションを追求し続けている。
3. データサービスと生産管理など細分化したソリューションを提供。

「+1」は医療業界への展開

- ① 脳卒中リハビリ向けスマートデバイスの開発(発売中)
- ② インプラント式の第三類医療機器の開発



手のリハビリ用医療軟質ロボット



3種類のISO・GBを保有しているソフトグripper

■業界ポジション:自社の研究所を保有し、ソフトロボット技術の工業化を実現した世界2社の一つ

国際ロボット連盟(IFR)によると、世界の工業工程中における生産と搬送のオートメーション化はわずか3%～4%となっており、残りの96%は手作業が必要になっている。同社が開発したソフトグripperロボットは業界の新しい局面を開いた。

同社の製品(ソフトグripper、真空パワフル吸盤、グripper内部のサポート固定具、静電気吸着カップなど)は、「デリケート」「従来だと取り扱いが難しい」「真空状態で作業ができない」といったアイテムの取り扱いに関する問題を解決した。

2019年に、連続で数千万元のpre-AとAラウンドの資金調達を完了。2020年にMicrosoftアクセラレータのインキュベーションプログラムに入選(1000社以上のスタートアップから15～20社が入選)。中国ハイテク企業の認証を取得し、60以上の国内外の特許を持ち、技術は業界の先頭に立っている。FOXCONN、HAERS、Schneider、BYD、BOSCHと提携。

技術上の優位性

構造設計技術:自社で材料力学と構造力学実験室を設立、デュアルチャネルのソフトロボット構造は国際特許を取得。

製造プロセス:自社で製造拠点を保有し全工程を管理。ソフトロボットの寿命を数千回から300万回に増加させ、人件費を90%削減。

材料の研究開発:自社の材料科学研究所で長期実験を通じて、長寿命・耐磨耗性・帯電防止など多様なシリコンを開発。



アクセサリ用



電子部品用ソフトグripper



ガラス瓶用

トイレ革命

20年前に私が留学生として、最初に日本の地を踏んだ時に一番感動したのは日本のトイレの清潔さでした。住宅のトイレは言うまでもなく、どこの公衆トイレにもトイレトペーパーがあり、臭わないどころか良い香りもすることに驚いたのをよく覚えています。

初めてのアルバイト先の飲食店でも、先輩からまずトイレ掃除を教えていただき、トイレが汚い店はお客さんが入らないと、トイレ掃除が如何に大事であるかをオモテナシの日本文化として学びました。

20年前の中国の公衆トイレは北京、上海の大都市であっても、高級ホテルのロビー以外は汚い・臭いのが当たり前であり、外国からの観光客はトイレに入る時に勇気が必要だったと思います。特にドアがなく、排泄物も丸見えのトイレは恐怖そのものだったと思います。そんな中、習近平国家主席のトイレ環境に対する問題意識から、トップダウンによって近年全国的に「トイレ革命」(中国語:厕所革命)が起こっていました。特に2015年には国家観光局が全国の観光地に3年かけてきれいなトイレを整備するという「トイレ革命」に着手して、観光振興にとどまらず、貧困にあえぐ農村部にもトイレ整備が広がられました。

2020年現在、中国の都心部の多くのトイレは驚くべき進化を遂げ、高級ショッピングモールのトイレに至っては、そのデザインを含めて、大きくグレードアップしています。

実際に深センの蛇口港の公衆トイレの写真で、進化した中国のトイレをお見せしたいと思います。

トイレの入口には大型ビジョンによって女子トイレと男子トイレの使用状況がリアルタイムでわかるようになっています。赤色に表示されている場所が使用中ですので、混雑状況は一目瞭然です。

また、驚くことに温度・湿度・空気清潔度・臭気の代表でもある硫化水素濃度も確認できます。



次にご紹介するのはおむつ交換ができる個室と障害者用トイレになります。(右上写真参照)まだ日本の多目的トイレのようにベッドやオストメイト対応器具は備え付けられていませんが、車椅子での利用が可能であることだけでも大きな進歩でしょう。

唯来企業管理諮詢(深圳)有限公司
副總經理

姜 香花

日本・中国専門の進出・撤退案件のエキスパート。
現在はクロスボーダーM&Aも手がけている。日本人、中国人の気持ちを理解したコンサルティングに定評。中国事業再編・M&Aサービス担当。



手洗いゾーンですが、子ども用の低い洗面台もあります。乾燥機は日本のトイレではあまり見られないユニークな形です。



トイレの掃除責任者の名札とトイレの利用体験を評価できるタブレットもついており、「好評」「普通」「悪い」を選びます。中国で一般的な担当者責任制という管理方法でもあります。



また、最近はトイレトペーパーの無駄使いを防ぐために、QRコードで1人分だけ自動で出てくる器具を備え付けているトイレも出ています。



一方、中国人旅行者の爆買いで話題となったウォッシュレットですが、未だに洋式トイレに違和感を感じている中国人が多いため、輸入品・国産品含めて一般家庭での普及は増えているものの、公衆トイレではほとんど見かけることはありません。

日本のように面積は小さいけれど多機能で便利なトイレに比べて、中国のトイレにはまだまだ改善すべき要素が多いですが、形式主義にならない実用性の高いトイレが増えることを期待しています。

(レポートは2020年7月9日現在の情報)



深圳未来创新服务中心
MIRAI Innovation Center Shenzhen

深圳市南山区软件产业基地5E棟522号 518061
TEL:86-135-3089-3085
<https://micsz.net/>